

イモリ

Cynops pyrrhogaster (Boie)

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少 b 分布域の一部で生息条件が悪化

【形態】 全長7～13cm、全体に黒色であるが腹面が赤いことでサンショウウオとは区別できる。腹面の模様は全体が赤いものから、黒色の部分が多いものまで個体差、地域差が大きい。

【分布】 日本固有種。本州・四国・九州と周辺諸島に広く分布する。池・水田・湿地など流れの緩やかな水中に多い。

【県内の分布、生息状況】 県内全域に分布している。以前は水田や水路でごく普通にみられたが、現在では市街地やその周辺を中心にほとんどみられなくなった地域が少なくない。山地のため池など、多くの個体が生息する場所が残っているものの、分布は局地的になりつつある。

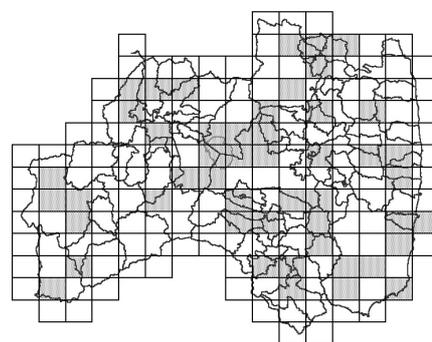
【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 水路整備 圃場整備

【特記事項】 本種は実験材料として時折用いられるが、地域差の大きい種であり、安易な放流は避けねばならない。

【生息データ件数】 52

【主要文献】

日高敏隆監修(1996)日本動物大百科5 両生類・爬虫類・軟骨魚類。平凡社、東京。pp. 6-116.



ツチガエル

Rana rugosa Schlegel

【選定根拠】 a 分布域の一部で個体数が減少（平坦部） b 分布域の一部で環境条件の悪化（幼生の越冬環境）

【形態】 頭胴長30～60mm、体色は暗灰色から灰褐色で背中や足にかけてイボ状の突起がみられる。産卵場所は、沼、湿地（水田を含む）などで、幼生（オタマジャクシ）は越冬する個体が多い。

【分布】 本州、四国、九州、佐渡島、隠岐、五島列島、朝鮮半島、中国大陸東北部、ロシア沿海州に分布する。なお、北海道西南部と伊豆諸島、ハワイは人為的に移入され、定着した。

【県内の分布、生息状況】 県内全域でみられ、中山間地の沼、水田で多く、かつては平坦地の水田において代表的な種であったが、農薬使用等による個体数の激減から、未だ回復していない。

【生息に影響を与えている要因】 池沼開発 圃場整備（冬期の水田乾燥） 河川改修 水路整備

【特記事項】 他のカエルよりも水環境に依存しているため、農薬の影響を受けやすい。現在生息が確認されている平地及び中山間地の水田では、より自然に近い用排水路を整備することが好ましい。また、池沼や水路を整備する際には、多自然型工法を取り入れ、護岸などをコンクリートで固めないようすることが望ましい。

【生息データ件数】 47

